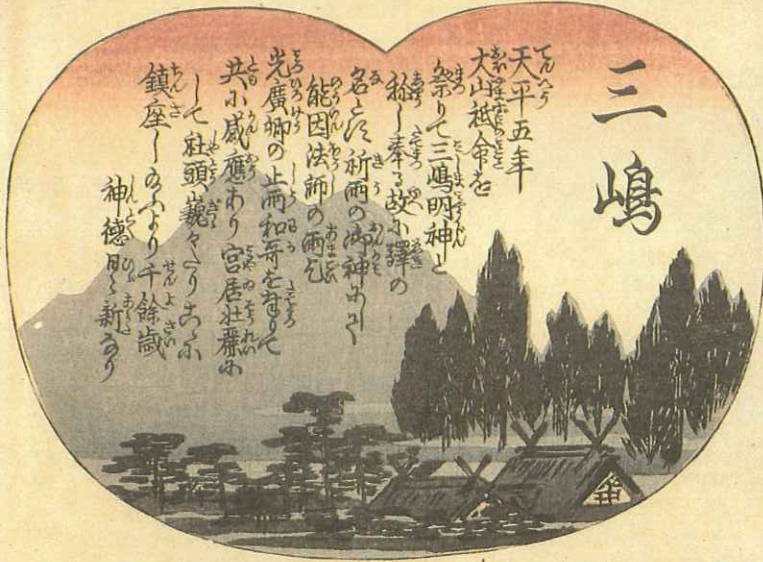


東海道 五十三對



三島を中心とした

東海道浮世絵展

(三島／白須賀)



浮世絵の中の三島

三島は東海道の宿場として栄えた町である。宿場時代の三島の風景は、浮世絵師たちが描いた「東海道五十三次」などの絵の中に見ることができる。

三島明神（現大社）は、三島を象徴する風景として、こうした浮世絵の画題とされた。

初代広重の代表作保永堂版「東海道五十三次」では、朝霧の深くたちこめた明神鳥居前の出立したばかりの旅人が描かれている。湧水の流れる三島では、早朝の霧も三島を特徴づける風景だった。「隸書東海道」(初代広重)、明神の鳥居で三島だと判る。夕刻であろう。はたごには行灯が用意され、わらじをぬぐうとしている旅人が見える。鳥居左上から眺めた俯瞰図法で描いている。正月の年中行事「田祭り」も

しばしば初代広重の絵の題材となっている。「東海道五十三対」「東海道張交三」は、いずれも田祭りが図柄となっている。田祭り最後の所作、没紙傘を広げた夕立の場面である。「行書東海道」(初代広重)は明神の描かれていない例外的な絵である。道の左側に茶店を、左右に桜の木を描いた春ののどかな情景である。橋は新町橋だろう。とすれば、箱根を下って初めて目にする三島の町の風景である。しかし、今一つ三島らしさを感じないのは、やはり明神が描かれていないからだろうか。

以上の外、本企画で収集できた「浮世絵の中の三島」を特集してみた。



東海道五十三次之内
三島 初代広重 (保永堂版「朝霧」)

監修 高見順忠雄

東海道五十三次之内

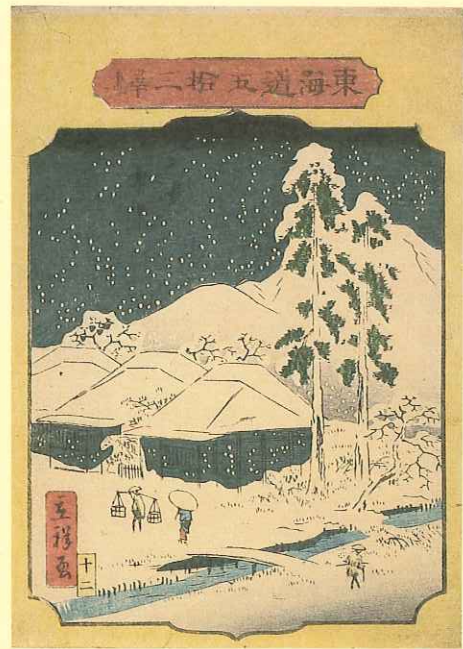


東海道十二 五十三次
三島 初代広重 (隸書東海道)





▲ 東海道 五十三驛 十二 三島
三島明神一の鳥居 二代広重

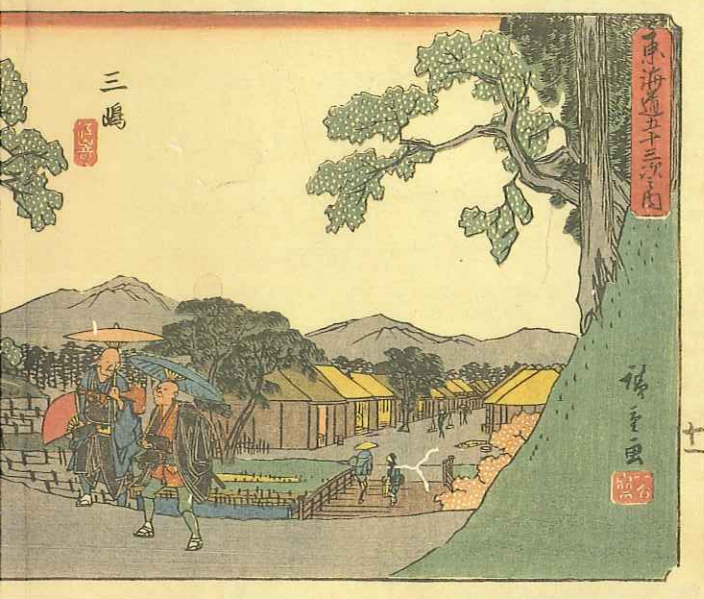


▲ 東海道 五十三驛 十二 三島
立祥 (二代広重)



▲ 東海

之内 三島 初代広重 (行書東海道)



▲ 五十三次名所図会 十二 三島 初代広重



東海道五十三次 三嶋 狂歌入り 初代広重 (佐野喜版)



▲ 五十三次張交三
小田原・箱根・三嶋・沼津 (泉市板)



▲ 東海道名所膝栗毛 三嶋 為信



▲ 肉筆浮世絵「正月六日 三嶋踊」初代広重



▲ 東海道五十三次の内 三島
金谷金五郎 三代豊国



▲ 東海道 箱根三島間
山中とち坊 三代豊国 (役者見立東海道五十三駅)



▲ 雙筆五十三次 三島 初代広重 三代豊国



▲ 末広五十三次 三島 三代広重

浮世絵とは何か

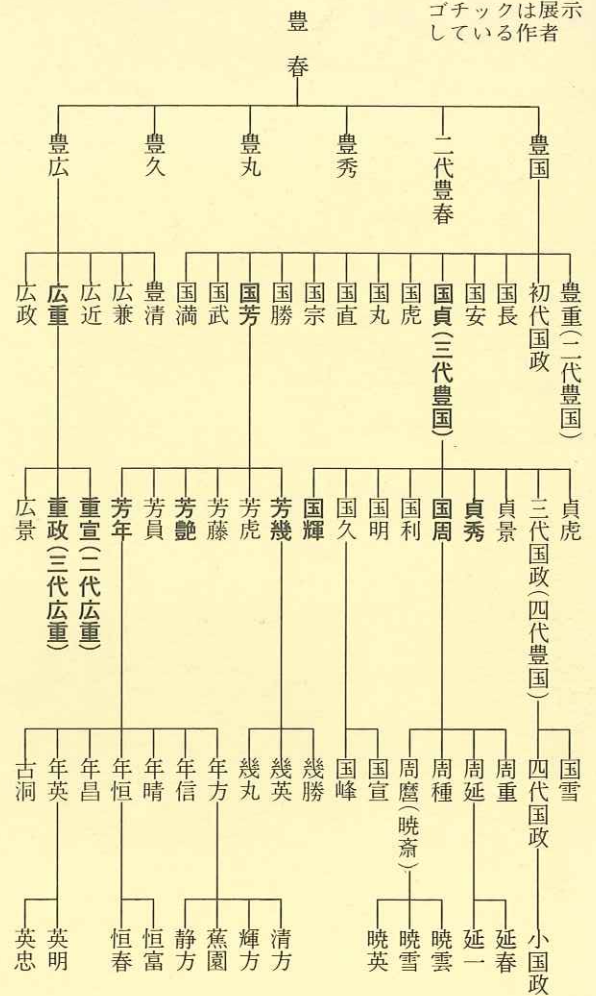
大きな特徴に、時代風俗を絵の主題にしていること、一般庶民が気軽に楽しめる大衆性があることがあげられる。時代風俗を絵の主題にすることは、安土・桃山時代からすでにあった。しかしそのころは、肉筆による絵画が主流で、一般庶民がだれでも絵を求めるといふ気軽さはまだなかった。主題も、また絵を求めるといふものも、庶民中心となったのは、木版画の隆盛と普及に因るところが大きい。版画は、一度に大量の作品を生み出す。流通性がよく、多くの人々が手に入れられるのはこのゆえである。また、後世までも作品が残りやすい。絵の主題の中に、庶民の生活姿や風景が取り入れられ、画風にかつてない新鮮味がでた。役者絵の流行、東海道を始めとした各種旅シリーズなどは、大いに庶民の夢をかき立て、もてはやされた。さて、以上のような意味での浮世絵の発達は、延宝年間(1673~1680)のころの菱川師宣によって始められたというのが通説となっている。江戸時代文化の高揚期である。商業が発展し、町人の経済力が増大したのもこのころであった。こうした時代にあって、浮世絵は、いわば時代の花形、江戸文化を象徴するものだった。

数多く残されている江戸時代風俗を描いた浮世絵に、私たちは庶民の生き生きとした力強さを見出すことができる。

展示品目録(但しパンフレット掲載分は除く)

外題・内題	作者	枚数
東海道五拾三次之内 箱根~白須賀	初代広重	23 枚
五十三次名所図会 箱根~白須賀	初代広重	23 枚
東海道中栗毛次馬 箱根三島~白須賀二川	一恵斎芳幾	11 枚
五十三次之内 箱根三島	国周	合せ絵
近世人物誌 江川太郎左エ門	芳年	
新板道中すごろく		
源頼朝公富士嶺牧狩図	国芳	3 枚組
頼朝公富士ノ狩場行列ノ図	国輝	3 枚組
頼朝公大井川行列図	芳艶	3 枚組
東海道金谷阪勝景	貞秀	3 枚組
荒井勝景図	貞秀	3 枚組
伊勢参宮大井川之図	国周	3 枚組
東海道五十三次之内大井川渡船之図	国輝	3 枚組
東海道箱根山中之図	貞秀	3 枚組
箱根山富士見平御遊覧之図	貞秀	3 枚組
東海道薩陀峠之景	貞秀	3 枚組
興津駅勝景之図	貞秀	3 枚組
東海道分間絵図		
富士見十三州輿地全図	秋山永年	
伊豆七島全図	秋山貫	
富士之嶽	貞秀	
※表紙 東海道五十三次 三島正月六日三島祭の図	初代広重	

歌川派系図



出品協力者

浅倉 清氏 榑原町
 岡部直良氏 三島市
 西家孝氏 沼津市
 沼上城山氏 三島市
 望月宏充氏 沼津市
 新居関所史料館
 沼津市明治史料館

企画展

三島を中心とした

東海道浮世絵展

三島~白須賀22宿

昭和62年9月5日~10月25日

三島市郷土館

〒411 三島市一番町19-3

TEL 0559-71-8228